

『地域の企業との連携』による町あるき (一般社団法人昭島観光まちづくり協会)

1. 昭島観光まちづくり協会の「町あるき」

昭島観光まちづくり協会は「産業観光（集積する各種産業を新たな観光資源と捉える）」、「着地型観光（地域における資源発掘を狙う）」、「民間事業者との協働（民間事業者を主体とした組織による展開）」の3つを大きな柱として観光事業を推進している。

そのなかで、着地型観光の実践として「『地域財産の再認識による観光資源化』による町あるき」を実施している。昭島の町あるきの特徴は、工業を中心とする「産業」を一定の視点から関連付けをしながら「昭島」の独自色を出せるコースを設定していることである。これら「あきしま町あるき」の狙いとして、普段通り過ぎてしまうような場所や、普段見ることが出来ない企業の内側を訪れることで「地域資源の再発見・地域価値の共有・地域愛の醸成」を促し、参加者に「住み続けたい・住んでみたい」と感じてもらうことを目的としている。

2. 地域の企業との連携による「町あるき」

昭島市は地域財産として「産業」を掲げている。そのため「町あるき」を実施するにあたり「地域の企業」との連携を行うことが必要不可欠である。昭島観光まちづくり協会は、「町あるき」を一緒に実施することで「CSR（地域貢献）の実現」や地域内の「企業の認知度」を高めることに加え、参加した市内外の方々との交流を行うことで「企業イメージの向上」に繋がることなど、地域の企業にむけて丁寧に説明をしながら協力関係を構築している。また、「町あるき」参加者には、地域の企業が「何をしているか（何を作っているか等）」を知る機会として、地域理解（地域への愛着）に繋がることを期待している。なお、町あるきコースの例として、造船会社の研究所を見学するコースでは、普段入ることが出来ない大型水槽を備えた実験施設で行う船の模型を使ったプロペラ推進性能の実験の見学や、リネン（クリーニング）の会社では、「洗濯・乾燥・たたみ・仕分け」など一連の作業工程を間近に見学出来るコースなどがある。なお、食品会社を見学するコースは、産地食べ比べの試食やクイズ形式による親しみやすい説明を行うなど、受入側の企業も工夫を凝らしており、多種多様な企業との協力関係によりコースが創られている。最近では、職人さんが働いている町工場などから「町あるき」への企画協力も増えており、地域全体で協力する取組に拡がりつつある。

現在、年12回開催される「町あるき」のうち半分の6回が地域の企業との連携によるものである。

3. 今後、目指すもの

地域の企業との連携による「あきしま町あるき」は、「地域資源の再発見・地域価値の共有・地域愛の醸成」を促し、「昭島のまちづくり」に欠かせない重要な事業となっている。今後も、地域の様々な企業との連携を図り、地域住民や市外の参加者が昭島を「住み続けたい・住んでみたい」と感じて頂くとともに、地域の企業が「昭島で事業を続けていることの誇り」などを実感して頂くことも大切な要素であることから、「あきしま町あるき」を推進していくこととしている。

＜おわりに＞

昭島観光まちづくり協会の「町あるき」事業は、自然・歴史等のテーマだけでなく、地域の企業との連携を中心とした事業展開を行っていることが特色となっております。企業との連携を行うためには、お互いの信頼関係のもと、様々な諸調整が必要であるため、昭島観光まちづくり協会と地域の企業との「信頼関係」が構築されていることを読み取ることができます。

新たな企業との連携による「町あるき」の造成や「オープンファクトリー」のような展開など、今後の「あきしま町あるき」に注目しております。